

# アヒルと鴨の コインロッカー



大学進学のため、あるアパートに引っ越してきた「僕」は、全身黒ずくめの悪魔めいた隣人、河崎と出会う。河崎は初対面の「僕」に言う。隣の隣に住む外国人のために広辞苑を奪いたい。一緒に本屋を襲わないか――。

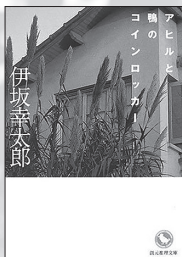
ドルジというブータン人と同棲しており、かつては河崎の恋人だった「わたし」は、近頃頻発しているペット殺しの犯人たちと出会う。犯人たちは怯える「わたし」に言う。ペットも飽きてきた。そろそろ、人間もありかもよ――。



今回紹介するのは、伊坂幸太郎の小説『アヒルと鴨のコインロッカー』だ。謎めいた青年、河崎に巻き込まれてゆく現在の「僕」の物語と、残虐なペット殺し事件に巻き込まれてゆく2年前の「わたし」の物語。「僕」と河崎の2人の物語と、「わたし」とドルジと河崎の3人の物語。時系列を異にしながら同時に進行してゆく2つの物語が重なり合ったとき、世界一哀しい本屋強盗の物語が幕を開ける。

伊坂幸太郎の小説の特徴といえば、奇抜な設定と緻密に計算し尽くされた構成であるが、この小説はその王道をゆく作品だ。関係がはっきりしないまま進んでゆく2つの物語を繋ぐ最後のピースがはめ込まれた瞬間、ありとあらゆる場面に張り巡らされた伏線がすべて回収され、本屋強盗を実行した河崎の真意が明らかになるとともに、胸を締めつけられるような切ない想いがあふれ出す。そして、ページを繰り、また初めから読み直したくなる。そんな小説だ。あなたも、伊坂ワールドの真骨頂ともいえる『アヒルと鴨のコインロッカー』で不可思議な世界を体験してみたいかがだろうか。その驚きの結末には哀しくともどこかあたたかい感動が待っている。

『アヒルと鴨のコインロッカー』  
著者：伊坂幸太郎  
出版社：創元推理文庫  
定価：648円（税抜）



はみだし  
すてーじ

【偽りの感動】(・ε・) → ( ; ε ; ) → (・ε・)  
⇒ C 彡 ☆ ) ε ・ ) ♪ - ン

(工・院 Javaさん)  
【真の怒り】；編